



第34回近畿高等学校バスケットボール新人大会

個人トータル表

男子

令和6年2月18日 14:30 開始

決勝

ジェイテクトアリーナ奈良 A

東山	62	<table border="1"> <tr><td>10</td><td>1st</td><td>20</td></tr> <tr><td>15</td><td>2nd</td><td>18</td></tr> <tr><td>23</td><td>3rd</td><td>19</td></tr> <tr><td>14</td><td>4th</td><td>19</td></tr> </table>	10	1st	20	15	2nd	18	23	3rd	19	14	4th	19	76	◎	京都精華学園
10	1st	20															
15	2nd	18															
23	3rd	19															
14	4th	19															
(京都)			(京都)														

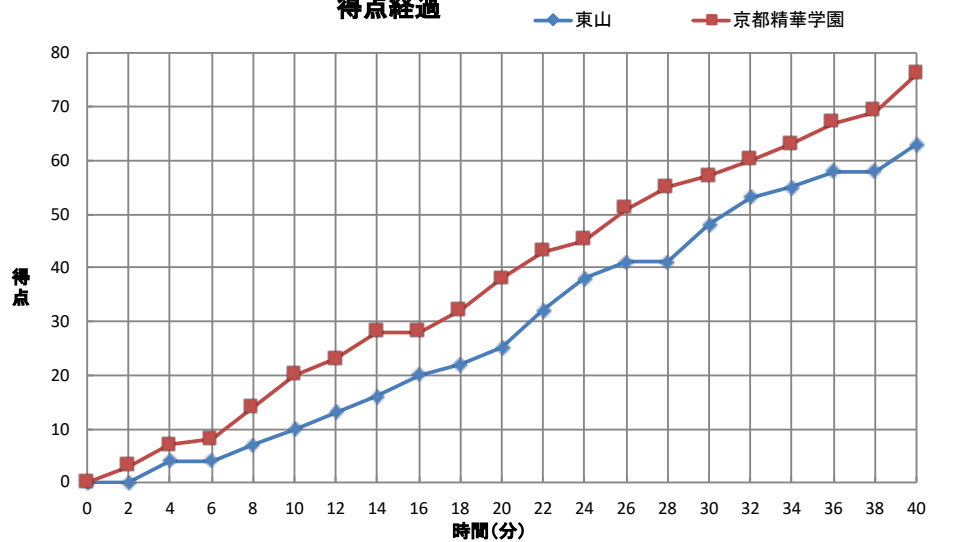
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
* 4	松島 慎弥	2	0	0	2	3	00	翁長 佑誠	-	-	-	-	-
5	横尾 理	-	-	-	-	-	2	西村 康太郎	-	-	-	-	-
* 6	カンダ マビカ サロモン	12	0	5	2	3	* 6	上野 叶翔	13	0	6	1	4
* 7	南川 陸斗	5	0	2	1	1	7	善山 亮太	6	0	2	2	3
* 8	小野寺 星夢	17	3	4	0	1	8	井上 智敏	-	-	-	-	-
9	千葉 颯太	-	-	-	-	-	11	内山 煌和	-	-	-	-	-
10	大本 純弥	-	-	-	-	-	* 13	新開 温矢	10	0	5	0	1
* 11	佐藤 凪	26	4	6	2	2	* 14	西村 晴太	6	2	0	0	0
12	伊藤 温太郎	0	0	0	0	0	15	西本 圭汰	0	0	0	0	1
13	湯川 真央	-	-	-	-	-	18	前 和成	-	-	-	-	-
14	瀧川 隼汰	-	-	-	-	-	19	竹村 寅治郎	-	-	-	-	-
15	劉 俊杰	-	-	-	-	-	* 23	東郷 然	13	0	5	3	0
16	藤原 洋輝	-	-	-	-	-	34	キモナ ディエウ	17	0	7	3	1
17	佐藤 蒼暎	-	-	-	-	-	55	林 徠樹	-	-	-	-	-
18	川口 律	-	-	-	-	-	* 77	ソロモン レイモンド	11	0	4	3	3
コーチ	大澤 徹也						コーチ	山崎 翔一郎					
Aコーチ	山崎 健太郎						Aコーチ	奥田 翔					
合計		62	7	17	7	10	合計		76	2	29	12	13

クルーチーフ: 北村 仁

1stアンパイア: 塚本 圭右

2ndアンパイア: 大澤 貴広

得点経過



TO	1・2Q	3・4Q	OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	14:27	: 37:34	:	:	:	:
TeamB	17:42	: 35:42	:	:	:	:

〔戦評〕

東山#4松島・#6サロモン・#7南川・#8小野寺・#11佐藤
 京都精華#6上野・#13新開・#14西村・#23東郷・#77レイモンド
 第1Q、両チーム、マンツーマンでスタート。立ち上がり両チームともかたさが目立つものの、ともに留学生のオフェンスリバウンドからの得点で流れを掴みにかかる。中盤、京都精華がピックアップアンドロールからの多彩なオフェンスで徐々に点差を離す。東山も#8の2本の3Pなどでぐらいつくが、10対20と京都精華リードで第1Q終了。
 第2Q、開始早々東山の得点で反撃にかかるが、京都精華も#23のエンドワンプレーで流れを離さない。一進一退の展開が続く中、東山#11の連続得点や3Pで点差を縮め逆転を図るが、大事な場面でのターンオーバーでリズムに乗り切れない。一方の京都精華も#34のゴール下を中心に引き離しにかかる。終盤、フリースロー成功からのオールコートゾーンプレスでターンオーバーを誘発し、得点に繋がった京都精華が差を広げ、38対25で前半終了。
 第3Q、京都精華が要所で1-2-1-1ゾーンプレスにディフェンスを変化させるなど先に仕掛ける。東山もゲームのテンポアップを図りリズムを掴もうとする。東山#6の強烈なダンクで東山に流れが傾いたかと思われたが、テンポアップした試合展開に京都精華も対応し互角の戦いが続く。終盤、東山#11の連続得点で少し点差を縮め、第4Qの逆転に繋がりたい東山。48-57、京都精華リードで終了。
 第4Q、好調な東山#11を中心に徐々に点差をつめる東山。嫌な流れを切りたい京都精華は、残り4分8点リードで後半最初のタイムアウト。#34の高さを活かしたプレーや、#23の華麗なジャンプシュートでもう一度流れを取り戻す。厳しいディフェンスにシュートを外しても、何度もオフェンスリバウンドに飛び込み得点を重ねる京都精華が、最後は突き放し62-76で勝利を掴む。
 巧みなハーフコートオフェンスだけではなく、リバウンドやルーズボールにも果敢に飛び込み最後まで走り切った京都精華が初優勝を飾った。

戦評: 峠 和貴

記録: 奈良商工高校